

縁光講話

「かならずかならず一つところへまゐりあふべく候ふ」

『親鸞聖人御消息』より

はじめに

わたくし共は月参りなどの折々に、『阿弥陀経』を誦読させていただいております。お経とは仏様のお言葉であります。お経にお会いすることは、多くの仏弟子の皆さまと共に仏様のご説法を聴聞させていただいていることと同じであります。これは極めて得難いことであり、またこの上なく尊いことでございます。さらに加えて内容がわかれば味わいも深まるというものであります。そこで、共々に『阿弥陀経』を拝読してまいりたいのであります。同時に『御文章』も拝読してまいりたいと存じます。目次には【】内に番号を割り振っておきました。【】内の番号と本文の【】内の番号を参照していただければ便利かと存じます。仏教用語をなるだけ使わぬようにしましたので、あくまで大筋の御紹介とお考えくださいませ。

目次 内の番号を参考にしてください

【1】 仏説阿弥陀經

【2】 姚秦三藏法師鳩摩羅什奉詔訳

【3】 如是我聞。

【4】 一時佛、在舍衛國祇樹給孤獨園、与大比丘衆、

千二百五十人俱。皆是大阿羅漢、衆所知識。

【5】 長老舍利弗・摩訶目犍連・摩訶迦葉・摩訶迦旃延摩訶俱

絺羅・離婆多・周利槃陀伽・難陀 阿難陀・羅睺羅・驕

梵波提・賓頭盧頗羅墮・迦留陀夷・摩訶劫賓那・薄拘羅・

← ここから序分です

『阿弥陀經』が説かれた法座に集まられた方々が述べられます。

【6】

阿ぬ楼駄・如是等諸大弟子、

并諸菩薩摩訶薩、文殊師利法王子・阿逸多菩薩・乾陀

訶提菩薩・常精進菩薩 與如是等

諸大菩薩及釈提桓因等無量諸天大衆俱。

← ここから正宗分です

【7】

爾時仏告 長老舍利弗 従是西方 過十万億仏土 有

世界 名曰極樂。其土有佛 号阿弥陀 今現在説法。

舍利弗 彼土何故 名為極樂。其国衆生 無有衆苦

但受諸樂 故名極樂。

【9】

又舍利弗 極楽国土 七重欄楯 七重羅網 七重行
樹。皆是四寶 周匝圍繞。是故彼国 名曰極樂。

お浄土はどこにあるのか、なぜ極樂とお呼びするのかが説かれます。

お浄土の様子が説かれます。

【10】

又舍利弗 極樂国土 有七宝池 八功德水 充滿其中

池底純以 金沙布地。 四辺階道 金銀瑠璃 玻瓈

合成。 上有楼閣 亦以 金銀瑠璃 玻瓈碑磔 赤珠碼

磔 而嚴飾之。 池中蓮華 大如車輪。 青色青光 黄色黄

光 赤色赤光 白色白光。 微妙香潔。 舍利弗 極樂国

土 成就如是 功德莊嚴。

又舍利弗 彼仏国土 常作天樂。 黄金為地 晝夜六時

而雨曼陀羅華。 其国衆生 常以清旦 各以衣祴 盛衆

妙華、供養他方十万億仏。 即以食時 還到本国 飯食經

行。 舍利弗 極樂国土 成就如是 功德莊嚴。

復次舍利弗 彼国常有 種種奇妙 雜色之鳥。 白鵠孔

雀 鸚鵡舍利 迦陵頻伽 共命之鳥。 是諸衆鳥 晝

【11】

【12】

お浄土には仏法を説き述べる鳥のいることが説かれます。

【13】

夜六時やろくじ 出和雅音すいわげおん 其音演暢ごおんえんちやう 五根五力七菩提分八聖ごこんごりきしちぼだいぶんはつしよう
 道分どうぶん 如是等法によぜとうほう 其土衆生ごどしゆじやう 聞是音已もんぜおんに 皆悉念仏かいしつねんぶつ 念法ねんぽう
 念僧ねんそう

舍利弗しゃりほつ 汝勿謂此鳥によもつ いしちやう 实是罪報所生じつぜがいほうしよしやう

所以者何しよいしやが 彼仏国土ひぶつこくど 無三惡趣むさんまくしゆ 舍利弗しゃりほつ 其仏国土ごぶつこくど 尚しやう

無三惡道之名むさんまくどうしみやう 何況有実がきやううじつ 是諸衆鳥ぜしよしゆちやう 皆是阿弥陀仏かいぜあみだぶつ

欲令法音宣流よくりやうほうおんせんる 變化所作へんげしよさ

舍利弗しゃりほつ 彼仏国土ひぶつこくど 微風吹動みふうすいどう 諸宝行樹しよほうぎやうじゆ 及宝羅網ぎやうほうらもう

出微妙音すいみまやうおん 譬如百千種樂ひによひやくせんじゆがく 同時俱作どうじくさ 聞是音者もんぜおんしや 皆自然かいじねん

生じやう 念仏ねんぶつ 念法ねんぽう 念僧之心ねんそうししん 舍利弗しゃりほつ 其仏国土ごぶつこくど 成就じやうじゆ

如是によぜ 功德莊嚴くどくしやういん

舍利弗しゃりほつ 於汝意云何おによいうんが 彼仏何故ひぶつがこ 号阿弥陀ごうあみだ 舍利弗しゃりほつ 彼仏ひぶつ

【15】

【14】

なぜ阿弥陀様とお呼び申し上げるかが説かれます。

【16】

光明無量 照十方国 無所障礙。是故号为阿弥陀。

又舍利弗 彼仏寿命 及其人民 無量無辺 阿僧祇劫。

故名阿弥陀。

【17】

舍利弗 阿弥陀仏 成仏已来 於今十劫。

【18】

又舍利弗 彼仏有 無量無辺 声聞弟子 皆阿羅漢。

非是算数之所能知。諸菩薩衆 亦復如是。舍利弗 彼仏国

土 成就如是 功德莊嚴。

【19】

又舍利弗 極楽国土 衆生生者 皆是阿鞞跋致。其中

多有 一生補処 其数甚多。非是算数 所能知之。但可

以 無量無辺 阿僧祇劫説。

【20】

舍利弗 衆生聞者 应当發願 願生彼国。所以者何得

与如是 諸上善人 俱会一处。舍利弗 不可以 少善

阿弥陀様も、お浄土の人々も寿命は
はかりしれぬことが説かれます。

阿弥陀様は成仏されてからこのかた
十劫であると説かれます。

お浄土には、数限りない阿羅漢がお
られることが説かれます。

お浄土に生まれるものは、みな不退
の位であつて、多くは一生補処であ
ると説かれます。

お浄土を願うものは、聖者方とお浄
土で相まみえることが説かれます。
しかし、お念仏以外ではお浄土へは
生まれることのできないのです。

【21】 根福徳因縁 得生彼国。

舍利弗 若有善男子 善女人 聞説阿弥陀仏執持名号

若一日 若二日 若三日 若四日 若五日 若六日

若七日 一心不乱

其人臨命終時 阿弥陀仏 与諸聖衆 現在其前。是人

終時 心不顛倒 即得往生 阿弥陀仏 極樂国土。

舍利弗 我見是利 故説此言。若有衆生 聞是説者

应当發願 生彼国土。

【24】 舍利弗 如我今者 讚歎阿弥陀仏 不可思議功德 東方

亦有 阿閼鞞仏 須弥相仏 大須弥仏 須弥光仏 妙

音仏 如是等 恒河沙数諸仏 各於其国 出広長舌相

徧覆三千大千世界 説誠実言。汝等衆生 当信是称讚

仏様の御本意では、

他力念仏の人は、ご信心いただいたそのときに、現生正定聚の位につかせていただいて、往生成仏まちがいない身とらせていただくことが説かれます。

ここから、かずかぎりない仏様方が阿弥陀様のお徳を讃嘆されるとともに、わたしたちにお念仏を勧められることが説かれます。

【25】

不可思議功德一切諸仏 所護念經。

舍利弗 南方世界 有日月灯仏 名聞光仏 大焰肩仏

須弥灯仏 無量精進仏如是等 恒河沙数諸仏 各於其

国 出広長舌相 徧覆三千大千世界 説誠実言。汝等

衆生 当信是称讚 不可思議功德一切諸仏 所護念經。

舍利弗 西方世界 有無量寿仏 無量相仏 無量幢仏

大光仏 大明仏 宝相仏 浄光仏 如是等 恒河沙数

諸仏 各於其国 出広長舌相 徧覆三千大千世界 説

誠実言。汝等衆生 当信是称讚 不可思議功德一切諸

仏 所護念經。

舍利弗 北方世界 有焰肩仏 最勝音仏 難沮仏 日

生仏 網明仏 如是等 恒河沙数諸仏 各於其国 出

【27】

【26】

広長舌相 遍覆三千大千世界 説誠実言。 汝等衆生

当信是称讚 不可思議功德一切諸仏 所護念經。

舍利弗 下方世界 有師子仏 名聞仏 名光仏 達摩

仏 法幢仏 持法仏 如是等 恒河沙数諸仏 各於其国

出広長舌相 遍覆三千大千世界 説誠実言。 汝等衆生

当信是称讚 不可思議功德一切諸仏 所護念經。

舍利弗 上方世界 有梵音仏 宿王仏 香上仏 香光

仏 大焰肩仏 雜色宝華嚴身仏 娑羅樹王仏 宝華徳仏

見一切義仏 如須弥山仏如是等 恒河沙数諸仏 各於其

国 出広長舌相 遍覆三千大千世界 説誠実言。 汝等

衆生 当信是称讚 不可思議功德一切諸仏 所護念經。

舍利弗 於汝意云何。 何故名爲一切諸仏 所護念經。 舍

りほつ 利弗 若にやくう有善男子 善女人 聞もんぜ是諸仏所説名 及ぎゆうきよう經

みようしやぜしよぜんなんし 名者みようしや是諸善男子 善女人 皆かい為一切諸仏 共ぐしよご所護念皆

とくふたいてん 得不退転 於お阿耨多羅三藐三菩提 是故ぜ舍利弗 汝等によとうかい皆

とう 当 信受我語 及諸仏所説。

しやりほつ 舍利弗 若にやくう有人 已發願 今發願 当發願とうほつがんにくしやうあ欲生阿弥陀

ぶつこくしや 仏国者 是諸人等 皆得不退転 於お阿耨多羅三藐三菩

だい 提 於おひこくど彼国土若已生 若今生 若当生 是故ぜ舍利弗

しよぜんなんし 諸善男子 善女人 若にやくう有信者しんじや应当發願 生彼国土。

← ここから流通分です

しやりほつ 舍利弗 如我今者 称讚諸仏不可思議功德 彼諸仏等

やくしやうせつが 亦称説我 不可思議功德 而作是言。釈迦牟尼仏 能為

『阿弥陀經』がなぜ、すべての仏様が
方が護り念じられるお経といわれる
のかかが説かれます。

他力念仏の人は、必ず現生において
正定聚の位につかせていただき、次
の生において必ず仏とならせていた
だくことが説かれます。

【33】 甚難 希有之事 能於娑婆国土 五濁惡世 劫濁 見

濁 煩惱濁 衆生濁 命濁中 得阿耨多羅三藐三

菩提為諸衆生 說是一切世間難信之法。

舍利弗 當知 我於五濁惡世 行此難事得阿耨多羅三

藐三菩提 為一切世間 說此難信之法。 是為甚難。

【34】 佛說此經已 舍利弗 及諸比丘 一切世間天人阿修羅

等 聞佛所說 歡喜信受 作禮而去。

聖人一流章

【35】 聖人一流の御勸化のおもむきは、

【36】 信心をもつて本とせられ候ふ。

【37】 そのゆるぎは、

お釈迦様が、わたし共に他力念仏のご法義を説くという極めて難しいことをなすとげられたことが説かれま

親鸞聖人の説かれた浄土真宗のご法義は、往生成仏の正しき因は「信心」であるということが述べられます。

【38】 もろもろの雑行をなげすてて、

【39】 一心に弥陀に帰命すれば、

【40】 不可思議の願力として、

【41】 仏のかたより往生は治定せしめたまふ。

【42】 その位を「一念發起入正定之聚」とも釈し、

【43】 そのうへの称名念仏は、

【44】 如来わが往生を定めたまひし御恩報尽の念仏とこころう

べきなり。

【45】 あなかしこ、あなかしこ。

あらゆる自力の行をすてて、疑いなく阿弥陀様のおおせを聞きうけるものは、はかり知ることのできない阿弥陀様の本願力のはたらきによって、現生正定聚の位につかせていただくのであることが述べられます。

阿弥陀様が私の往生成仏を決定してくださったのでありますから、この上の称名念仏は阿弥陀様の御恩に対する感謝のほかはないことが述べられます。